

館長講演会 第四弾

鷹と人の江戸時代

Watanabe
Takashi



渡辺 尚志

松戸市立博物館館長
一橋大学名誉教授

専門:日本近世史・村落史

著書:江戸時代、百姓をテーマに多数

聴講されるみなさまへ

江戸時代には、将軍や大名が鷹を使った狩猟(鷹狩)を行なっていました。鷹狩が行なわれる場所を、鷹場(たかば)といいました。現松戸市域は、将軍家と水戸徳川家の鷹場になっていました。そのため、住民の生活には、鷹場であるがゆえのさまざまな影響がおよびました。現代では想像もできませんが、江戸時代には鷹の存在が人々の暮らしを大きく規定していたのです。この講演では、鷹場からみえる江戸時代の現松戸市域についてお話しします。

日時:2026.4.24(金)

14:00~16:00 開場 13:30

場所:森のホール21 小ホール

定員:300名(予約要・申込み順)

聴料:無料

申込み:①往復ハガキに 名前・住所・TELを記入

〒270-2252 松戸市千駄堀671番地

松戸市立博物館友の会「4/24講演会」係

ハガキ申込み締切:3/31(火)

②Web「松戸市立博物館友の会」

<https://sites.google.com/view/tomonokai2026>

松戸市立博物館友の会と検索 友の会のページより館長講演会申込をクリック下さい。

主催:松戸市立博物館友の会

共催:松戸市立博物館

問合せ先:藤沢 090-8081-3189

